

公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 部分公開
	<input type="checkbox"/> 非公開	

## 令和元年度 第4回浜松市社会福祉審議会児童福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和2年2月13日(木) 14:30～15:30
- 2 開催場所 市役所本館8階 第5委員会室
- 3 出席状況
- 委員 佐々木正和(ささきまさかず) 中村勝彦(なかむらかつひこ)  
杉江陽子(すぎえようこ) 安間清弘(あんまきよひろ)  
高林厚子(たかばやしあつこ) 岩淵元美(いわぶちもとみ)  
山口崇(やまぐちたかし) 横田みどり(よこたみどり)  
渡辺東作(わたなべとうさく)
- 事務局 こども家庭部: 金原部長、鈴木次長  
次世代育成課: 小田切課長、松下補佐、林グループ長  
青少年育成センター: 加藤所長  
子育て支援課: 小林課長補佐  
児童相談所: 鈴木所長、横井課長補佐  
幼児教育・保育課: 山本課長  
尾田幼児教育指導担当課長  
井川課長補佐  
健康増進課: 鈴木グループ長  
学校教育部教育総務課: 野田就学支援担当課長  
齋藤学校・地域連携担当課長  
内田グループ長
- 欠席委員 丹下美幸(たんげみゆき)
- 4 傍聴者 1人(一般: 1人)
- 5 内容 《報告》  
(1) 第2期 浜松市子ども・若者支援プラン(案)パブリック・コメント結果について(次世代育成課)
- 6 会議録作成者 次世代育成課 管理・育成グループ
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無  有・無

## 8 会議記録

### 1 開会

### 2 会長挨拶

〈資料の確認〉〈議事録署名人の指名〉〈傍聴者入場〉

### 3 議事

#### 《審議》

- (1) 浜松市子ども・若者支援プラン（案）パブリック・コメント結果について（次世代育成課）

（小田切課長）

- (1) についての説明

#### 【質疑・意見】

（山口委員）

資料1の14ページ、質問7「区分3号と幼稚園型一時預かり事業の確保の内容の関連はどうか」という質問に対して、市の考え方では「区分1号の施設において実施する事業となる」とあるが、この質問の区分3号は2歳児の預かり保育のことを指していると思うが、「確保の内容」の関連について教えていただきたい。

（山本課長）

幼稚園型一時預かり事業の確保の内容については、現状、各幼稚園の実施状況から反映できるものを数値で記載している。今後さらなる拡大、新たな事業の展開などがあれば、進捗状況を見ながら数値を精査させていただく。

（山口委員）

2歳児の預かり保育は、3号の確保の内容として今回の事業計画には入っていないということか。

（山本課長）

確保の内容には特に見込んでいない。

（山口委員）

内閣府の資料に、「2歳児の預かり保育を3号の確保の内容に含めることができる」とあるが、浜松市ではそのような計画はないのか。

（山本課長）

市として2歳児の預かり保育を今後も拡大していく方針に変わりはない。

(渡辺委員)

資料1の19ページ、要望22について、障害のある子供への適切な指導について、過日、行われた学童保育の相談支援連絡会の中で、主任児童委員が呼ばれて意見交換をした。その際意見の中で、「最近障害のある子供も学童保育を利用している。災害などが起きた時に障害児の対応をどうしたらよいか、体系的なマニュアルがない、どのようにしたらよいか分からない。」という声が上がった。学童保育のいざという時のリスク管理などは整備されているのか。

(齋藤担当課長)

放課後児童会の支援員について、発達障害のある児童への接し方についてはルピロから講師を招いて研修会を実施しているところであるが、現状、リスク管理マニュアルはない。今後整備を検討していきたい。

(渡辺委員)

資料1の15ページ、要望13の「子育て世代包括支援センター」が十分に活用されているのか。各区役所の健康づくり課が窓口になっていることは、初めて知った。認知までに至る周知ができていないのではないかと。高齢者に対する相談支援センターの「地域包括支援センター」はそれなりに認知されている。地域の担い手である民生・児童委員が連携してコミュニケーションを図って情報を共有している。

障害者の相談支援センターが4月から各区でスタートする。子育てに悩む人は多くいる。様々な問題で民生・児童委員にも相談をするが、制度が複雑なため、窓口を明確にしたい。例えば健康づくり課で保育園のことを聞けば社会福祉課に回されるが、たらい回しをするのではなく、「相談支援センター」という文言を入れるならば相談窓口としてのプレート等を掲示していただくとありがたい。それにより民生・児童委員が相談を受けた際に、窓口への案内ができると思われるが、市としての考えを聞きたい。

(鈴木グループ長)

子育て世代包括支援センターは、各区役所の健康づくり課が機能を担い実施させていただいている。そこでは妊娠中から健康づくり課が母子健康手帳を交付し、すべての妊婦に対する支援を保健師が開始し、その後、地域の皆さんと連携を図りながら妊娠中から出産・子育て期に渡って支援していく機能を検討している。

民生・児童委員をはじめ、地域の子育て支援団体の方にも、機会を通して各区役所から声をかけているところであるが、今後、団体、市民にも認知される相談窓口としていきたい。

(渡辺委員)

「はままつ子育てガイド」の19ページに、困った時の相談先の記載があるが、なかなかそこまで見る人は少ない。可能であれば1ページ目に各区の窓口を入れていただきたい。せっかくのガイドなので有効に市民の皆様にも周知できるよう工夫していただきたい。

(佐々木会長)

はますくファイルには子育ての情報は記載されているか。

(鈴木次長)

浜松市の子育ての情報は浜松市公式ホームページ「ぴっぴ」に掲載されている。はますくファイルについては子育てサポート情報の提供、子どもを育てるための留意事項の記載が中心となっている。情報入手の手段としては「ぴっぴ」で確認することが最も手軽に入手できる手段である。

(横田委員)

このような「はままつ子育てガイド」があることは知らなかった。この情報誌はどこに配架されているのか？

(鈴木次長)

区役所・協働センターに配架している。

(横田委員)

市役所に出向く機会がない場合はどうするのか。

(鈴木次長)

市ホームページで閲覧することが可能である。

(横田委員)

ホームページの閲覧は、小さな子供がいる等、家庭の事情により不便な場合もある。このような情報誌はとても重要。働く母親は、回覧板も見ないうちに回されてしまうこともある。回覧板も情報の塊である。このような情報を手軽に活用できるように、市役所や区役所に以外にも、大型ショッピングセンターなど若い夫婦が行く場所においてあると手にとりやすい。

(杉江委員)

相談したいことがあっても、相談先が分からない。窓口職員のパソコンの中に、フローチャートの窓口案内ができるシステムがあると良い。

計画の中に研修事業がいくつかあるが、研修参加中は他の人がその人の職務に従事でき、必須の研修に全ての職員が参加できるような配慮がなされているか確認したい。

(鈴木次長)

内部的な事務フローは存在しているが、あくまでも内部での活用にとどまる。直接的に市民が目にするものではないが、職員は事務フローに基づいて案内している。

(金原部長)

相談内容は非常に幅広くなっている。相談内容ごとに案内する部署を整理し記載した資料を、各課が連携して現在作成中である。相談は多岐に渡るため、作成していく中で、複

合的な相談内容等についてどう対応していくか研究しながら取り組み、成果に繋げたい。

(山本課長)

研修会の開催については、発達支援に関する研修会は毎年市も実施しており、その他の研修会も保育士会等で行っている。各園の実情から、全ての職員が参加できるものではないが、全園対象とした研修会は毎年開催しており、参加できるように案内している。

(杉江委員)

各職員が順番に出席できるように、回数を増やすなり努力してほしい。子供たちへの影響が大きいため、発達支援の研修に関してはなるべく多くの職員が参加できるよう取り組んでほしい。

(横田委員)

研修会は、各施設に具体的に開催日程、参加定員等を告知しているか。

(山本課長)

全園を対象に連絡をしている。会場のキャパシティの関係で基本的に各園 1 名としているが、会場によっては複数参加も可能である。

(横田委員)

各園長の判断で 1 名を選ぶことになると思われるが、参加した職員が他の職員に研修会の報告をどう伝えるのかが大事である。例えば 30 名の職員に対し 1 名の参加者からどう報告をしていくかを考えると、1 名では少ないように思う。研修会開催にあたっては様々な調整があり大変だとは思いますが、子供が少なくなっている中で不安を抱えている保護者も多いため、研修会の回数を増やしていただきたい。

(山本課長)

公立保育所・幼稚園の場合は、研修会開催後に園内研修会が行われ、出張の報告も行われている。当課で実施している研修会も職員の認知度が高まっている。また、発達支援については、専門機関、専門コーディネーター等による巡回訪問も園によって活用していたっている。研修会にとどまらず全体的に認知度を深めていく取組みが必要と考える。

(安間委員)

放課後児童会の委託事業は、1 年ごとに事業者が変わる可能性があるのか。

(齋藤担当課長)

放課後児童会の委託化は、令和元年度からの事業で 1 年契約になっている。今年度は 4 か所、来年度は 25 か所。来年度についても 1 年間の契約になっている。

(安間委員)

1 年間積み上げた様々なノウハウが、翌年度に新しい事業者になった場合は継続しているか心配である。

(齋藤担当課長)

運営内容については、変更のないよう引継ぎしていただくよう事業者をお願いしている。積み上げてきたノウハウは基本的に引き継ぐことになっている。

(安間委員)

制度的に入札は1年ごとに行うということだが、引継ぎが心配である。

放課後児童会と放課後児童会育成会とのかかわり方であるが、今後事業者が運営していく中で、放課後児童会育成会がどのようなかかわり方をするのか方向性を教えてほしい。

(齋藤担当課長)

これまで小学校区ごとの放課後児童会育成会が運営主体となっていたが、委託化により放課後児童会育成会の組織が不要となっていくため、委託化された地域の放課後児童会育成会はなくなっていく。地域住民や学校関係者とは引き続き情報共有を図っていく。

(安間委員)

支援員がかなり不足している放課後児童会がある。支援員の募集は事業者が行うのか。

(齋藤担当課長)

委託化している放課後児童会については、そのようになる。

(安間委員)

放課後児童会に入会できない人が令和2年度には597人いる。これは表に出ている数字であって、潜在的には始めから諦めて申し込まない人が大勢いる。597人だけでなく、これから先もっと増える可能性はある。それに対する対策をしっかりとしてほしい。

(渡辺委員)

資料2の77ページに、「浜松市におけるひとり親家庭の状況」とある。親と子のみの世帯比率が68.3パーセントと、全国より高い状況にある。正規の職員が39.4パーセントと全国平均より大幅に下回っている。ひとり親世帯の収入が300万円未満の世帯が64.1パーセント、これも全国平均を大幅に下回っている。

浜松市の子どもの貧困対策の中でも、ひとり親の世帯に対する施策のアプローチ、例えば、学習支援などは必ずしも集中的に取り組んでいると感じない。収入が少ない場合には、赤い羽根の共同募金から助成金を歳末給付金という形で支出している施策もあるが、貧困の連鎖を断ち切るという視点では、学習支援や子ども食堂、子供の居場所作りなど、集中的に行ってほしい。

民生委員としても、ひとり親家庭にはこのような施策に積極的に参加を促すよう対応していきたい。学習支援の開催場所などを、民生委員の方からひとり親家庭に案内していくことは、施策として重要だと思う。

(鈴木次長)

ひとり親世帯の貧困の割合が高いのは事実。特に学習支援については、浜松市でも貧困対策として力を入れている。来年度も更に拡充し実施していく予定である。それぞれの地域で学習支援を実施しているが、子供が参加するにあたって様々なハードルがある。成果を上げるためには地域の力、民生・児童委員はもとより学校、地域住民の方々の力が不可欠である。民生・児童委員の皆様には、学習支援への参加の勧めや、開催を知らない方への案内などご協力いただき、引き続き貧困の連鎖がなくなるように取り組んでいきたい。

以上で本日予定されていた議事はすべて終了した。ここで進行を事務局にお返しする。

#### 4 こども家庭部長挨拶

(事務局より)

#### 5 閉会